

2020年7月の行事予定表

1	水	聖書の学びと祈り会	16	木	祈禱会
2	木	祈禱会	17	金	朝の祈り会
3	金	朝の祈り会	18	土	
4	土		19	日	礼拝式、各会の例会日
5	日	総員礼拝式(聖餐式)、教会役員会	20	月	
6	月		21	火	
7	火		22	水	聖書の学びと祈り会
8	水	聖書の学びと祈り会	23	木	祈禱会
9	木	祈禱会	24	金	朝の祈り会
10	金	朝の祈り会	25	土	
11	土		26	日	礼拝式、各部会
12	日	礼拝式、奉仕の日	27	月	
13	月		28	火	
14	火		29	水	聖書の学びと祈り会
15	水	聖書の学びと祈り会	30	木	祈禱会
			31	金	朝の祈り会

7月お誕生・洗礼記念日の皆様、おめでとうございます。

編集後記

- ◇ 教会月報に「新型コロナウイルス」が登場したのは今年の3月号(2月制作)。それから7月号(6月制作)までの4か月、世界も日本も激動の日々でした。
- ◇ 日本国内の往来は自由になったとはいえ、コロナ禍はいまだ現在進行形です。
- ◇ 政府が指針としている「新しい生活様式」(3密の回避、マスク、手洗い&消毒、換気、身体的距離)を、「あ、そうだった」と思い出しては実行に努めていますが、このことで自分の心が大きく占められていることに気づきました。
- ◇ 月報紙面から伝わってくる信仰者の静かな平安・平和(ヨハネ福音書14:27)に私も日々満たされて生活したい、とあらためて励まされました。

教会月報

2020年7月
No.350

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

積極的平和主義

「平和を造る人々は、幸いである。
その人たちは神の子と呼ばれる。」
新約聖書・マタイ福音書5章9節

1945年8月15日の敗戦記念日に全ての戦いが終わった訳ではない。その数か月前には、日本軍は連合軍のアメリカ軍と熾烈な戦いが続いて起き、やがて壊滅的な結果となる。日本軍の作戦として沖縄は本土の捨て石となったのである。沖縄戦は6月23日、牛島満中将と原参謀長の自決により、実質的な戦闘は終結したのであった。

本土では8月6日広島に、9日には長崎に地球上初の原子爆弾が投下された。今日も被爆3世、4世が不条理と思える十字架の苦しみを味わっている。もし、敗戦を目前にしていたことを国の為政者たちが認識して、無条件降伏していたら、原爆による被害は阻止されたかもしれない。

さて、聖書に記されるイエス・キリストの言葉が冒頭の御言葉である。平和を実現するための働きには、大きく分けて二つある。一つは、力でねじ伏せるやり方である。強力なパワーで圧倒し、従わせるやり方だ。かつての欧米諸国が当時の未開地を植民地化した構図を想像したら理解しやすい。他の方法は、イエスの言葉により明らかにされる。パワーゲームではなく、愛による行いによって、平和をもたらすことにあった。平和をもたらすために、マルティン・ルーサー・キング・ジュニアは、黒人差別に徹底的に非暴力主義を進めた。それは積極的平和主義といえ、そして、アメリカに公民権をもたらしたのであった。彼の信仰がそれを成し遂げさせたといえるでしょう。今日もアメリカで起きた黒人差別問題が現実のこととしてデモンストレーションにより問い続けているのです。
牧師 永松 清



CS と子供たち

コロナ・ウィルス感染防止のため、3月8日～5月31日まで休校にしたCSは、6月7日より再開しました。

日常を取り戻しつつある子供たちは体調をくずことなく守られ、元気に礼拝に出席しました。生徒4名、教師・見守り隊の兄姉を合わせて10名。「信じた者の群れ」(使徒2:41)と題し語られたメッセージを落ち着いて聴く姿勢に喜びを覚えた教師たちでした。その後、進級式。CSより本の贈呈をしました。



T.Y.君(小2)が3月末に備前市へ引越し、備前小学校へ元気で登校していますが、今月の出席にご両親の送迎があり感謝です。去る4月6日には、Y君、牧師と私の3人で“月曜学校”を開講し通常の礼拝をささげ、分級のワークも学びました。

どの子供たちも無限の可能性を秘めていることに気づかせていただき、本当に私たちが子供たちに育ててもらっていると実感しております。心の成長の意味を感じ取ることができ、共に主を信頼して礼拝をお捧げでき、み救いへと導かれますよう祈っています。CSを理解し、お祈りやお支えをいただき、心より感謝しております。

教師 永松 淑子

礼拝再開！

ペンテコステ (聖霊降臨日) 待望の5月31日(日)より。

教会は、コロナ・ウィルス感染防止のため、3月22日から10週間、インターネット動画配信によるリモート礼拝でしたが、5月31日(日)ペンテコステ(聖霊降臨日)より通常礼拝が再開されました。

司会をY兄、奏楽(パイプオルガン)をF姉が務められ、懐かしく嬉しい心持ちで礼拝に臨みました。

永松牧師による「聖霊が降る瞬間」(使徒2:1～2)のメッセージを、20名の兄姉と共に味わえたことは、なんと幸いだったでしょう！

ただ、すべてを従前と同様には行なえず、6月14日まで一部、以下のような変更をしてきました。

- 礼拝時間は約50分間に短縮。□受付で手指の消毒。マスクを忘れた方には予備あり。□受付での記名は行わない。(初めての方にはカード記入をお願い)
- 聖書・讃美歌の貸出し休止。□座席は前後左右を空けて。□聖餐式は着席のまま配餐される。「パン」と「ぶどう汁」を、「個包装のウェハース」と「紙コップ入りぶどうジュース」に変更。



※礼拝は6月21日(日)より、通常順序になりました。

寄稿 「講解～ピリピ人への手紙」 大田建士師

学生運動が日本中を吹き荒らした時代、みな心が荒廃しました。その嵐をまともに受けたのは教会で、何も手を打てず、教会内でも空虚感が漂い、意欲も失せていました。

その折、まず東京神学大学の教師が立ち上がりました。これらの冊子を通してキリストを世に示したのです。この冊子は古い。ですが、基本的に分かりやすく、教会員を励ますために生み出された書物です。

この本の著者である竹森満佐一牧師は、礼拝の始まる時間になると礼拝堂の扉を閉める(=遅れて来られた方は二階に上がらなければならない)エピソードがある程、教会を厳しく指導されていたようです。自ら基本に忠実に取り組まれているその姿勢は、この本からも伝わってくるでしょう。

この本は聖書の説明から始まります。「ピリピ人への手紙」だけでなく聖書全体を捉えながら読み進めると、よりあいまいな部分や課題が明確になり、いっそう聖書が楽しめるようになると思います。

私は、この冊子にある「きよめ」の後に出てくる2章23節の“板挟み”という課題が示されました。ぜひこの冊子を聖書と共に読んでいただき、私たちが信じるキリスト、聖書が確かなものであるという思いを感じてください。

(編注:新共同訳聖書では「フィリピ人への手紙」と表記)

「心の聖句カレンダー」(5月最終週)

当教会の礼拝は、5月30日までの間、基本的にインターネット動画配信形式となっていました。そこで、皆さんから「心の聖句」が寄せられ、毎日配信されたものをカレンダーにしてみました。先月号に続く最終週の方です。

日	月	火	水	木	金	土
5/24 寺島 ダリ 詩篇 73 編 23,26,28 節	5/25 高齢者 (ペンネーム) I コリント書 2 章 9 節	5/26 ハナミズキ (ペンネーム) 詩篇 104 編 13,14 節	5/27 山茶花 (ペンネーム) 箴言 30 章 8 節	5/28 山茶花 (ペンネーム) イザヤ書 46 章 4 節	5/29 K.Y.兄 マタイ福音書 6 章 33 節	5/30 H.D.兄 1 コリント書 6 章 20 節

※敬称略

6月伝道礼拝 証し

S・K兄

最初に、皆さんに非常に心配頂いた妻の件ですが、とにかく食事が摂れなくなってきた、病院でも原因不明。夫婦仲はいいかと聞かれて「悪いです」と答えました(笑)。その後、大きな病院で調べてもらった結果、胃に小さなキズがあることと逆流性食道炎以外は大らかな問題は無いとのことで経過観察的な入院を一日間した後退院。今は妻が作ってくれる食事に本当に感謝しています。いつの間にか私も今年八〇になります。そこで少し考えました。

高校卒業後に京都に就職し、姉に導かれて若き日に上京教会で受洗しました。毎日の生活の中で現上京教会牧師の川村師ご兄弟や現佐世保教会牧師の井手下師方と共に交わり充実した青年時代を過ごしました。その中で「主はわたしたちに道を示される。わたしたちはその道を歩もう」(イザヤ書2章3節一部)の御言葉を与えられました。迷いながらも今までの御言葉を支えにして主に従って来られました。しかし、同じイザヤ書のドキッとする御言葉「草は枯れ、花はしぼむがわたしたちの神の言葉はとこしえに立つ」(イザヤ書40:8)という聖句にも支えられました。私も年齢を重ね、この言葉の重みを感じるようになってきました。

話は戻りますが妻の病状に私は悩みました。どのようにしてやればいいのか。そして結論に至ったのは「主の御言葉が示されるために、皆さんに祈って頂きたい」ということでした。神様への祈りと恵みによって妻は立ち直ることが出来ると思えます。少し動いただけですが脱水状態になる今の妻の状態は、神様の言葉によって癒されると思えます。どうぞ皆さんがご存知の明るく朗らかで元気な妻の姿がこの教会で表されるように祈って頂きたいと思えます。よろしくお願いたします。

